

白秋没後 80 年事業

白秋の歌集「雲母集」「雀の卵」が題材の挿絵と切り絵展を開催



①② musumi さんの切り絵③④北原白秋の歌集に描かれている挿絵（写真提供：公益財団法人北原白秋生家記念財団）

北原白秋の歌集「雲母集」「雀の卵」の世界を、歌集の挿絵と切り絵で表現するアート展を開催します。県内在住の切り絵作家 musumi さんが、切り絵で「水に白秋の言葉が流れ漂っている空間」を表現。また、同歌集の中から選んだ挿絵も拡大して展示します。入場

は無料です。挿絵と切り絵で表現された白秋の詩や歌の世界にぜひ足を運んでみませんか。

- 日時 毎週月曜を除く2月8日(水)～3月12日(日) 午前10時～午後5時（最終日は午後4時まで）
- 展示場所 ギャラリー

講談を再注目させた立役者 神田伯山独演会



令和2、3年度花形演芸大賞にて金賞を受賞。テレビやラジオ、映画などに活躍の場を広げ、今「最もチケットが取れない講談師」と言われている六代目神田伯山が登場。圧倒的な話芸で観客を魅了すること間違いなしです。講談界に旋風を巻き起こす風雲児の公演をぜひその目でお確かめください。

- 日時 5月13日(土) 午後3時開演(開場は45分前)
- 入場料 一般=3800円、高校生以下=1500円。未就学児は入場不可
- 無料託児 5月2日(火)までに要予約
- 前売券販売 2月18日(土) 午前10時から市民文化会館で販売開始。1人3枚まで

suito 定例イベント

詳しくは、同館の公式サイトで確認できます。

第3金曜 ロビーコンサート

●日時・料金 2月17日(金) 午後7時～(約60分)、無料

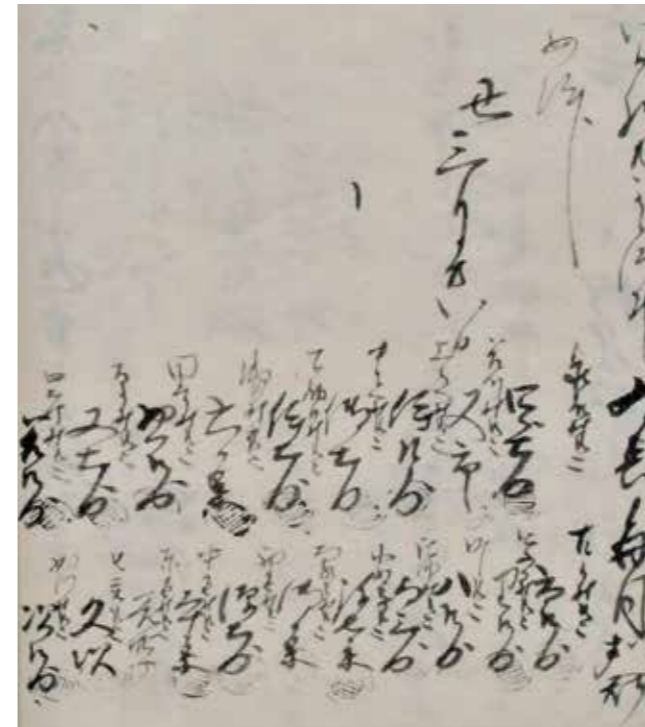
●出演 ユニット Harmoni

第3水曜 リトミックひろば

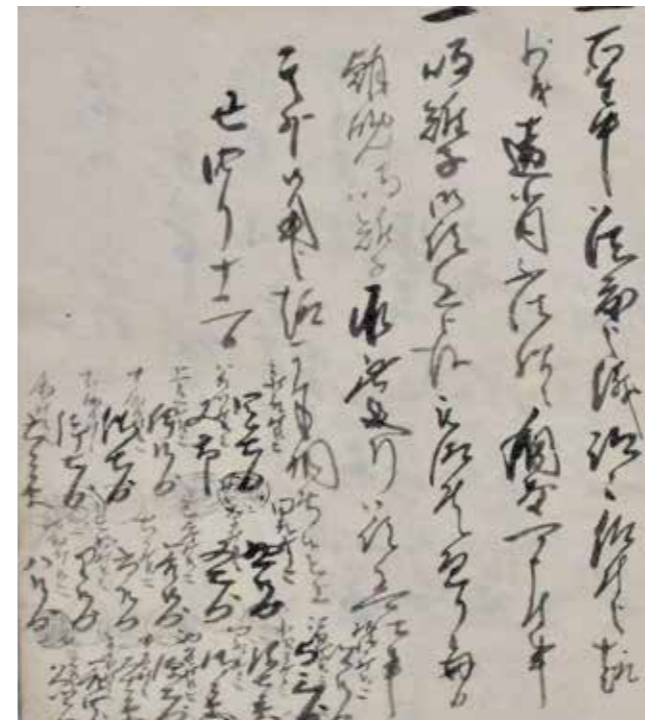
●日時・料金 2月15日(水) ①午前10時～②午前11時～(各40分)、1組500円

江戸時代の判

柳川古文書館長 江島香



3月28日付の庄屋名と判



4月12日付の庄屋名と判

柳川古文書館は、毎年古文書解説講座を開催しています。今年度の初級・中級編では、昨年度に引き続き、楠田組の大庄屋だった樺島家に伝えられた享保6(1721)年の「萬御用覚帳」を読んでいます。大庄屋は、柳河藩において20程度の村で構成される「組」を管轄していました。その職務に関連して作成された日記が萬御用覚帳です。内容は、別の地域から柳河藩にきて病気となった人の扱いや、貨幣改鋳をするときに藩が出した貨幣回収の通知など、村々での出来事の処理や藩からの通知が中心となっています。

その中にほぼ毎月村人に対する決まり事の確認をしていた記載があります。「百姓は無礼をしないように」といった内容が大半なのですが、その文書の最後に、必ず楠田組に属している村々の庄屋の名前が記され、それぞれ黒い判が押されています。また異なる月のものを見比べると、例えば3月に押されている判はほとんど同じですが、4月は数種類の判が押されています。また、3月と4月を見比べると、同じ庄屋でも違う判を使っています。

黒い判は「黒印」と言います。朱肉は当時高価で身分が高いしか使用できなかったため、こうした場面では使われなかったと考えられます。また同じ人物であっても同じ判を使っていないのは、当時は判を押す行為そのものが重視されていて、誰がどんな判を押すかはそれほど大切ではなかったためだと考えられます。

ちなみに、写真の判は何が彫られているかが判読できません。判は、17世紀前半に宗門改などが契機となって農民にも普及したと言われます。江戸時代初期の判は模様などが彫られていて自他を区別する役割しかありませんでした。17～18世紀になると、家の繁栄を願った「宝」「福」「家」「富」などの文字が使われるようになり、江戸時代中期から後期には本人の名前を彫るようになりました。現在のように名字を彫るようになったのは一般の人々も名字を名乗り始めた明治時代以降のことです。現在当たり前と思っている判も、時代や身分によって機能が異なっていることが理解できます。このように古文書が持っているさまざまな情報を発見していくことも古文書を読む醍醐味と言えます。(参考：「歴史の読み方」朝日新聞社)